

長野県信濃町六月集落付近で行われた地質調査 (1987 年) で 産出したアシミゾヒメヒラタゴミムシについて

初宿成彦・野尻湖昆虫グループ*

はじめに

野尻湖昆虫グループでは発掘後標本資料の整理や再検討が追いつかないままになっていたものも少なくないため、2018 年から過去の発掘標本の整理作業を行なっている。野尻湖地質グループが 1987 年 8 月に行なった、六月集落の西の谷底平野の地層のブロック割りによって検出された発掘品から、アシミゾヒメヒラタゴミムシが同定されたので報告する。本種が国内の旧石器時代の遺跡から産出するのは、野尻湖発掘調査を含め、初めてのことである。

産出層準および発見者

六月集落の西の谷底平野の地層 (野尻湖地質グループ, 1990), 露頭番号 870813B-01 (緯度 36° 49' 34.8", 経度 138° 11' 10"), ヨシまじり褐-黒色泥炭質シルト (紫灰色細粒火山灰の下)。野尻湖層の芙蓉湖砂シルト部に相当すると考えられ、約 3.3~1 万年前と推定される (野尻湖発掘調査団編, 1993)。藤澤裕美氏発見 (i-3)。

同定結果

コウチュウ目
オサムシ科
ゴモクムシ亜科
Agonum 属
Europhilus 亜属



図 1 産出したアシミゾヒメヒラタゴミムシ。
野尻湖ナウマンゾウ博物館にて収蔵予定。



図 2. アシミゾヒメヒラタゴミムシ。
海道釧路市広里。大阪市立自然史博物館蔵。

* 〒 546-0034 大阪市東住吉区長居公園 1-23 大阪市立自然史博物館昆虫研究室気付

アシミゾヒメヒラタゴミムシ *Agonum (Europhilus) gratiosum nipponicum* Habu, 1972

(図 1, 2)

【前胸背板】

幅 1.8mm, 長さ 1.7mm. 中央よりやや前方で最も幅広い. 中央基半に横皺状彫刻がある. 前縁はまっすぐで前角はほとんど突出しない. 後角は広く丸い. 基部陥没は比較的浅い.

【上翅】

幅 1.7mm, 長さ 4.8mm. 基部から 3/4 で最も幅広. 条溝は明瞭だが浅い. 基縁肩部は強く突出. 左右とも前胸背板とともに産出した.

【近似種との形態的相違】

前胸背板基部陥の浅いクロヒメヒラタゴミムシが類似するが, 同属の黒色種 3 種と比較してもプロポーション

はアシミゾヒメヒラタゴミムシが一致する (図 3). 前胸背板の幅/長さの比を黒色種 4 種で比較したところ, 本化石標本が 0.94 であるのに対し, Habu (1963) によると, アシミゾヒメヒラタゴミムシで 1.06~1.10, クロヒメヒラタゴミムシ 1.15~1.20, オンタケヒメヒラタゴミムシが 1.26~1.37, エゾヒメヒラタゴミムシ 1.16~1.29, ヒメヒラタゴミムシ 1.10~1.17 と, かけ離れた数値になっている.

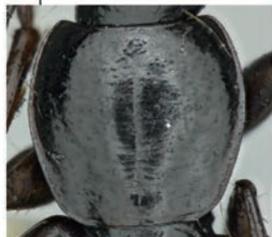
上翅の基縁肩部について Habu (1963) では, クロヒメヒラタゴミムシがかなり (rather) 突出する, アシミゾヒメヒラタゴミムシがやや (somewhat) 突出する, としているが, 実際にはほとんど差はなく (図 4), この形質によって同定することは不可能である.

【現在の分布】

北海道, 利尻島, 礼文島, 本州. 基亜種がシベリア, コーカサス, 小アジア, ヨーロッパに分布する (上野ら, 1985). 本州では関東以北の記録が多いが, 森田



クロヒメ
gracile



アシミゾ
gratiosum



オンタケヒメ
charillus



エゾヒメ
subtruncatum

図 3. 近縁 3 種との前胸背板の比較. 幅と長さがほぼ同じで, 緩やかに曲がる側縁や後角の形状はアシミゾヒメヒラタゴミムシが最も近い.



クロヒメ
gracile



アシミゾ
gratiosum



オンタケヒメ
charillus



エゾヒメ
subtruncatum

図 4. 近縁 3 種との上翅肩部の比較. この形質での同定は不可能である.

(2021) が愛知県での新記録を報告しており、これが本州では西限になると思われる。

【生態】 湿地に生息する。(上野ら, 1985)

考察

アシミゾヒメヒラタゴミムシは旧石器時代の遺跡では野尻湖発掘を含め、過去に産出例はなく、また縄文時代以降の遺跡における産出も富永 (1994) に掲載されていないため、国内では初の産出となる可能性がある。生息環境は湿地であることは明瞭なもの、北海道から愛知県まで広く分布するため、古気候について推定をすることはできない。

付記

本種を森田 (2021) でも述べられているとおり、*Europhilus* 亜属の同定は非常に難しく、アシミゾヒメヒラタゴミムシとその近縁種からの最も確実な区別点は、跗節背面の正中部に縦溝を有することであるという。前胸背板と両上翅が産出した好条件でありながら、本稿での同定の確定までには紆余曲折があり、当該化石標本の同定結果を一部に、北海道以北に分布するクロヒメヒラタ

ゴミムシ *Agonum (Europhilus) gracile* Sturm として紹介してしまったが、ここに訂正し謹んでお詫びする。

謝辞

堀繁久さん (北海道博物館) には比較のためのクロヒメヒラタゴミムシの標本を提供いただいた。近藤洋一さん (野尻湖ナウマンゾウ博物館) には発掘時の情報をお知らせいただいた。記して御礼申し上げる。

文献

- Habu, A. (1963) On the seven species of *Europhilus*, the subgenus of *Agonum* from Japan (Coleoptera: Carabidae). Bulletin of the National Institute of Agricultural Sciences. Series C, Plant pathology and entomology
- 森田誠司 (2021) 愛知県におけるアシミゾヒメヒラタゴミムシ (甲虫目, オサムシ科) の採集記録. 豊橋市自然史博物館研報 (31); 35-38,
- 野尻湖地質グループ (1990) 黒姫火山とその東麓の地質. 地団研専報 37 野尻湖の発掘 5.
- 野尻湖発掘調査団, 1993. 野尻湖の発掘 6. 野尻湖ナウマンゾウ博物館研究報告, 1. 227pp.
- 富永修 (1994) 日本の遺跡から産出した昆虫遺体のリスト. 昆虫と自然 29(8): 33-38.
- 上野俊一・黒澤良彦・佐藤正孝 [編著] (1985). 原色日本甲虫図鑑 (II). 保育社, 514pp.

Discovery of the ground beetle, *Agonum (Europhilus) gratiosum nipponicum* discovered during a geological survey conducted near Rokugatsu village, Shinanomachi, Nagano Prefecture in 1987

Shigehiko Shiyake and Fossil Insect Reserch Group for Nojiriko-Excavation

Abstract

A geological investigation in 1987 uncovered fossil beetle parts which have been identified as a carabid species, *Agonum (Europhilus) gratiosum nipponicum* Habu. This is the first recovery of this species in an archaeological site in Japan.

Key words : Nojiri-ko Excavation, Late Pleistocene, Carabidae, fossil, Nagano Prefecture, Japan